

シリーズ
原発・いのち・みらい
その1

田中優さんの講演を聞いて

自然エネルギー転換に
希望の光が見えた講演

平田 米里(野々市町・歯科)



講師の田中優さん
(写真提供: 米澤耕平さん)

四月七日、金沢市内で、田中優さん(注、参照)の講演を聞く機会がありました。講演は、福島原発事故の解説や放射性物質による人体への影響、東電の経営手法に隠されたカラクリなど、多岐に渡るものでした。特に、今後のエネルギー政策の在り方を考える上で多くのヒントを得られたと感じましたので、その要旨と私の感想を交えて投稿させていただきます。

講演で特に印象に残った点は、電力会社には電力生産に要する必要経費の三・五%が利益として入る仕組みがあり、ほとんど稼働していない原発施設などでも、長く保有すればするほど利益の増大に貢献でき、途中でやめる必要がない仕組みになっているとの指摘でした。重要な社会インフラの一つ故に、手厚い保護

で守られていることは理解できますが、度が過ぎて弊害が起きていると私には思えてなりません。現在、東京電力管轄内では夏場の電力供給量不足が懸念され、電力消費量が一日総量で三分の一を占めるとされる家庭での節電が論じられています。しかし田中さんの二〇〇〇年時点の計算によれば、電力がピークに達する夏場のお昼ごろでは、家庭の消費電力は九%を占めるだけで、ほとんどは大口契約者が消費しているのです。家庭での節電による貢献度は小さいようです。また、大口契約では、基本料金は高いのですが、後は使えば使うほど電気が安くになるので、省エネ対策に積極的でないことが必要以上に電力を消費する現状を生み出しているとのこと。原発が止

まっても、使えば使った分に比例して料金が増えるシステムにするとか、いろんな仕組みを変えていくことで三割くらいは節電できるはずと主張されました。

さらに、全電力会社の広告費の総計がトヨタのそれを上回るとの試算を出し、マスコミは電力会社の意向に与るといふ構図があるかもしれないとの指摘をされました。いろんな背景を知らずして、オール電化住宅は安全で環境に優れているとか、原発は必要悪だとかいう見方も変わらざるを得ません。

原発に関しては、諸外国に比べ元来日本は地震大国であり、二〇〇〇年ごろより地震活動性期に入ったので、今後も大地震が発生する可能性が高いと考えられる。多くの問題を抱える原発に依存する政策そのものが、本来日本にはふさわしくなかった。地球温暖化の最大の原因とされる二酸化炭素の排出量においても原発の優位性はないし、トータルでは発電コストも高すぎる。日本を尻目に世界の趨勢は、低コストで発電できる自然エネルギーへと舵を切っていることを真摯に受け止めるべきとのことだ

新人事務局員
ごあいさつ

熱い心と冷たい頭で
人権保障の新しい手に

事務局 長浦 久実



四月一日付けで石川県保険医協会の事務局員に採用されました。長浦久実(ながうら・くみ)です。大学では社会保障・社会福祉に関わる法制度を学んでいました。

高校生の時、身体障害者補助犬法制定の影響を受けて、メディアで介助犬が多く取り上げられていました。福祉を学んでいたことに加え、動物好きが高じて「実際に見てみたい!」と育成団体へと赴き、一週間泊まり込みで現場を見ることになりました。しかし現実ほど甘くなく、動物愛護の点で疑問の残る訓練方法、訓練士の過酷な労働環境、利用希望者へ介助犬が渡らない現状...「どうしてこんなことが起こってしまうのだろう」という思いが、私の

また、脱原発のもとで、個人が取り組む省エネ対策にしても、電力会社が保有する三つの資産である発電・送電・配電の内、送電網が開放されていないため、個人ばかりでなく一般企業の参入を拒んでいる現実があり、ヨーロッパ(ドイツ)の例を挙げているように、一般企業に送電網を開放することで、いろいろな種類の電力(自然エネルギー)が参入しやすくなるべきだと指摘も納得できました。今後は、今までのさまざまな不合理な電力政策を是正すると同時に、自然エネルギーの上手な活用などで、環境に優しい社会を作るために日本の優れた技術を活用すべきで、例えば、スマートグリッドに必要な技術の多くは日本が先陣を切っていますし、世界に誇れる蓄電技術もあります。

社会保障を学ぶ上での「めばえ」だったように思います。

三月十一日には東日本大震災が起こり、甚大な被害が発生しました。家族や家、仕事を失い、福島原発事故の影響で、農業・漁業を行うどころか、たくさんの人が故郷に住むこともできなくなりました。なにより生命の保障がなされていない現状が、今もなお続いています。生命・生活、そして医療・福祉を保障し、すべての人が安心して暮らせる社会。その実現のために活動していかねければならないと、強く思います。

協会事務局に入ってから三週間ほどがたちますが、現状や法制度について、自分の不勉強さを思い知らされる毎日です。「熱い心と冷たい頭」で、医療福祉の保障・人権保障の新しい手となるよう頑張っています。よろしくお願いたします。

それらを駆使した自然エネルギーの活用こそ、技術立国日本の復活の目があるとの主張には共感できず、その点にはかすかな希望の光を感じてもいいと感じました。

◇ (注) 田中優。地域での脱原発やリサイクル運動を出発に、環境、経済、平和などのさまざまなNGO活動に関わる。現在「未来バンク事業組合」理事長。

大震災被災地への
救援物資が集まる



石川県保険医協会から会員に被災地への「救援物資の共同発送」を呼びかけたところ、大人用紙おむつ、マスク、タオル、シャンプー・石けん、文房具類、歯ブラシ・歯磨き粉、下着類など、たくさんの救援物資を届けていただきました(写真左)。

全国災対連(災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会)を通じて、被災者にお届けしました。

締切迫る!
保険医年金

前半期受付期間 4月1日~5月25日
加入日 2011年9月1日
予定利率 1.258%(2011年3月1日現在)
お問い合わせ 石川県保険医協会まで
電話:076(222)5373